

令和6年度 普及活動成果集

多様な担い手が活躍する都市型農業をめざして！



福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター

令和7年3月

びわ生産塾

採種水稻栽培講習会

女性農業者研修会

「若松潮風®プレミアム」
試し切り

キャベツ生育調査

営農基礎講座

は じ め に

北九州地域の農業者並びに関係機関の皆様には、平素より普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

普及指導センターでは、「福岡県農林水産振興基本計画」が目指す方向のもと、市町、J A等の関係機関・団体で構成する地域協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーの方々や部会役員等の農家リーダーの皆様との連携・協力により普及活動を展開しています。

農業を取り巻く情勢は、年々激しくなる気象変動、資材価格の高騰、労働力の不足等と厳しく、農業経営に大きな影響を及ぼしています。

普及指導センターでは、これら諸課題の解決を図るため、「多様な担い手が活躍する都市型農業をめざして！」を普及活動のスローガンに掲げ、2つのプロジェクト課題と8つの部門別課題に取り組んできました。

この成果集は、重点野菜のブランド化や水稻・麦の高品質種子の安定生産等の普及活動事例のほか、主な表彰等についても紹介させていただきました。農業者の皆様や関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、今後とも普及指導センターは、現場の声にお応えしながら「担い手づくり、産地づくり」を活動の中心に据え、職員一同、一丸となって地域の課題解決に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和7年3月

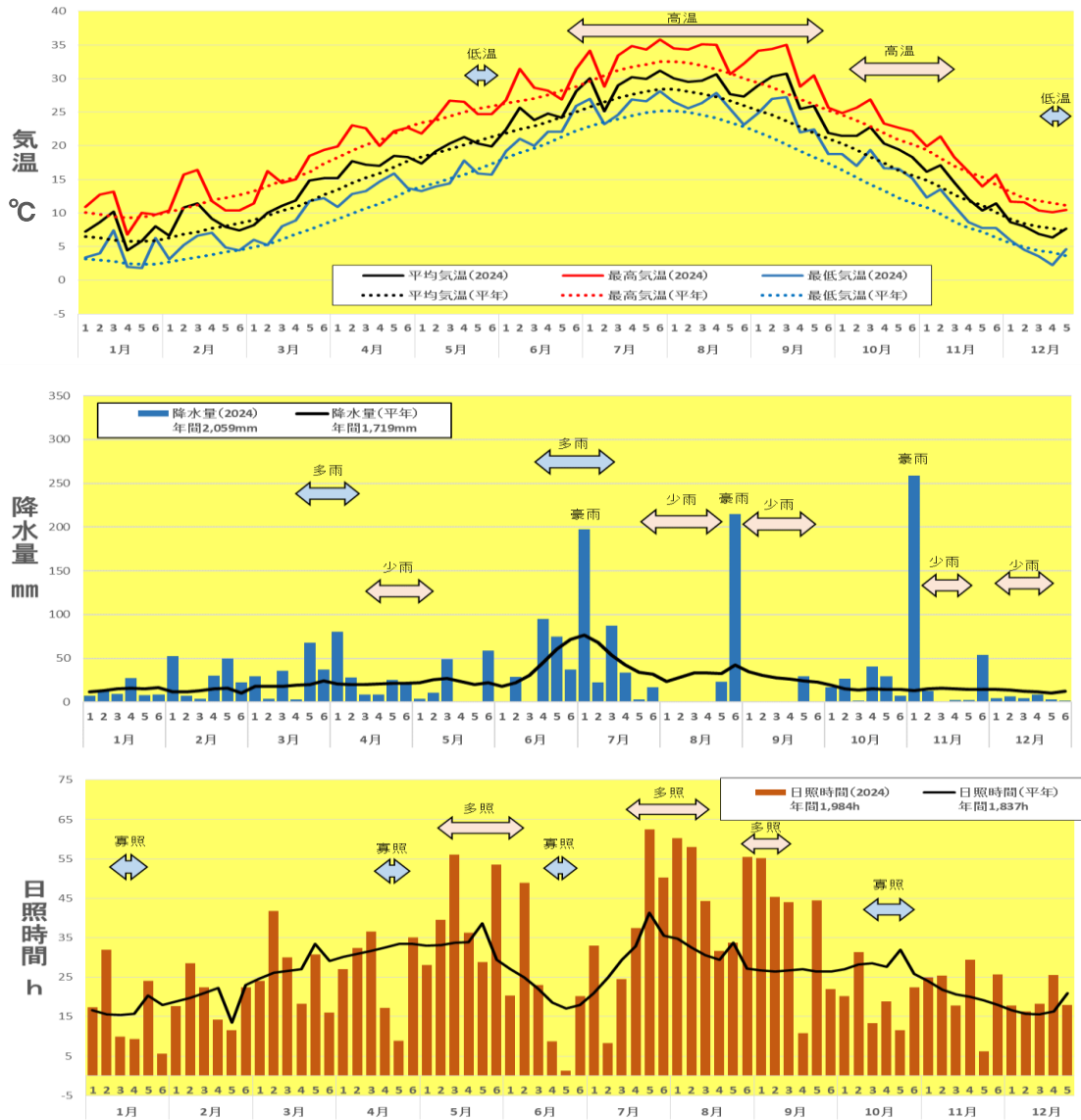
八幡農林事務所 北九州普及指導センター

センター長 佐伯 孝浩

目 次

1	令和6年 気象及び作物の生育概況	1
2	成 果	
	(1) 重点野菜推進及び担い手育成による門司・小倉地域の活性化	2
	(2) 遠賀・中間地域の担い手の経営力強化と園芸産地の振興	4
	(3) 地域を元気にする多様な担い手の育成	6
	(4) 採種米麦の安定生産に向けた取組	7
	(5) 若松地域における露地野菜農家の生産・経営安定に向けた取組	8
	(6) 遠賀・中間地域におけるいちごの単収向上と安定化	9
	(7) 地域特産果樹の生産安定と産地の維持	10
3	主な展示ほの結果の概要	11
4	トピックス	
	・全国麦作共励会で花田正則氏が全国米麦改良協会会長賞を受賞	13
	・大豆作共進会で森盛義氏が優秀賞を受賞	
	・福岡県農業指導功労者表彰を田中義一氏が受賞	14
	・ジャパン・フード・セレクションでなかにし養鶏場の「濃厚有精卵プリン」が グランプリ受賞	
	・福岡県農林水産まつりで早苗泰博氏が農林水産賞を受賞	15
	・福岡県農林水産まつりで(農)おざきファームが農林水産賞を受賞	
	・福岡県農林水産まつりで藤嶋在寛氏が農林水産賞を受賞	16
	・ふくおか6次化商品セレクションで「赤しそドリンク」が受賞	
5	現地活動情報・活動体制	
	・令和6年度 現地活動情報一覧	17
	・令和6年度 普及指導センターの活動体制	18

1 令和6年 気象及び作物の生育概況



- ・ 4月～5月上旬の降雨で露地すいか、なすの定植が遅れた。
- ・ 6月下旬～7月中旬の日照不足により、普通期水稻では分けつの不足がみられ、気温が高かったことでスクミリングカイの被害が一部で多発した。
- ・ 6月中旬から7月上旬の多雨により大豆の出芽がばらつき、7月下旬からの高温乾燥により生育抑制がみられた。
- ・ 7月下旬以降の高温乾燥によりなすの樹勢低下がみられた。
- ・ 8月上旬の高温乾燥により水稻では不稔もみが発生したことで収量は平年より少なく、品質は白未熟粒や充実不足粒の発生が多くみられた。
- ・ 8月下旬に襲来した台風10号の影響で水稻、大豆では一部のほ場で倒伏がみられた。
- ・ 8、9月の高温乾燥の影響により秋冬野菜では発芽不良、活着不良がみられた。
- ・ 9月に夜温が高かったことから普通作型のいちごでは花芽分化及び定植作業が遅れた。
- ・ 11月の豪雨の影響で露地野菜では根傷みによる生育の遅れがみられた。

2 成果

重点野菜推進及び担い手育成による門司・小倉地域の活性化

1 背景

門司・小倉地域の園芸農家は高齢化が進んでおり、J A北九東部野菜部会の出荷量は減少傾向です。また、農業集落においては、地域の担い手が少なく、今後、遊休農地の増加が懸念されています。

そこで普及指導センターでは、令和4年度から6年度にかけて、園芸振興と集落担い手の育成を重点プロジェクトとして、関係機関で構成される門司・小倉地域営農協議会（以下協議会）と連携しながら、以下の取り組みを実施しました。

2 取組内容

(1) 重点品目の推進

ア. 重点品目の出荷量拡大

協議会で、大葉春菊とほうれんそうを重点品目に選定し、両品目の出荷量拡大に取り組みました。

大葉春菊では、消費拡大により単価の安定を図り、作付拡大に繋げるため、以下2点を中心に、ブランド力強化に取り組みました。

- ① ブランド強化検討会…専門家派遣、他産地でのブランド化の事例紹介、若手会の設立支援
- ② 安定生産…栽培資料の作成、病害虫対策の情報提供、土壌分析に基づく施肥提案、竹パウダーの効果検証試験

また、ほうれんそうでは、安定生産に向け、省力化技術の現地調査や実証ほの設置、害虫対策の情報提供、堆肥の利用推進を行いました。

イ. 集出荷場整備に向けた地域営農ビジョンの策定

J Aの集出荷場の規模が小さく、集荷量を増やすことができない状況だったため、農家の意向調査に基づき振興品目を選定し、新たな集出荷場整備に向けた地域営農ビジョンの策定を支援しました。

ウ. 園芸担い手の販売額向上



大葉春菊ブランド強化検討会の様子



竹パウダー効果検証試験の様子

新規参入者5戸、親元就農者4戸の計9戸を重点支援の対象として、ヒアリング及び現地巡回を行い、個別課題の解決を図りました。

(2) 集落担い手の育成

3集落をモデル地区に選定し、集落アンケートの実施や座談会への参加、勉強会を実施して、集落の持続的な営農に向けた話し合いを支援しました。

また、各モデル地区の集落担い手育成のため、水稻作業の効率化支援や基盤整備事業の勉強会を行いました。

3 成果

(1) 重点品目の推進

ア. 重点品目の出荷量拡大

大葉春菊は、新たなブランド「うまかろーま®」として令和6年11月より出荷が始まりました。若手会を中心に北九州市長表敬訪問や市場での宣伝会等積極的な販促活動が行われました。



北九州市長表敬訪問の様子

ほうれんそうは、チェーンポット利用による労働時間削減、新規農薬による害虫の被害軽減を実証しました。

イ. 集出荷場整備に向けた地域営農ビジョンの策定

令和4年度に、なす、大葉春菊、ほうれんそうの出荷量拡大、えだまめ、たまねぎの新規導入を計画した地域営農ビジョンを策定しました。

ビジョン実現に向け、えだまめの作型実証ほの設置、省力化のための脱莢機の実演やたまねぎの作付推進に取り組みました。

ウ. 園芸担い手の販売額向上

個別課題に沿って品目・作型分散の提案や労力の確保方法に関する支援等を行った結果、販売額が向上し、重点指導対象農家9戸のうち6戸が目標販売額を達成しました。

(2) 集落担い手の育成

集落の話し合いにより、基盤整備事業への取り組みが計画されており、この取り組みは近隣集落にも広がっています。

集落担い手については、畦畔除去による水稻作業の効率化やドローン利用による防除作業の省力化が行われました。また、補助事業に関する知識の習得等により、今後は集落の担い手としての活躍が期待されています。

遠賀・中間地域の担い手の経営力強化と園芸産地の振興

1 背景

遠賀・中間地域は、いちごやびわの産地として知られています。また、米・麦・大豆と露地野菜の組合せによる複合経営が盛んに行われています。

しかし、高齢化による産地規模の縮小や担い手不足、集落営農組織の機能低下などが懸念されています。

そのため、いちごとびわの新たな担い手の育成、新品目導入等による担い手の経営力強化、集落営農組織の体制見直しや農地集積の推進により、遠賀・中間地域の農業振興に取り組みました。

2 取組内容

(1) 新たな担い手による産地振興

いちごの新たな担い手確保のため、新規就農者及び新規栽培者に対し、経営計画の策定支援や栽培技術支援を行いました。

びわの新たな担い手確保のため、高倉びわ活性化協議会によるびわ生産塾の開催や研修用園地の管理を支援しました。また、びわ生産塾生への技術習得支援とともに就農園地の情報提供を行いました。



いちごの新規就農者支援



びわ生産塾の様子

(2) 重点支援対象の経営力強化

地域農業の担い手の中から、重点支援対象を選定し、所得増加に向けた規模拡大や新品目導入及び肥料コスト低減に向けた緑肥導入を支援しました。

また、これらに伴う労働力不足に対応するため、労働力募集アプリ等を活用した短期雇用の導入を支援し、経営力の強化を図りました。

(3) 土地利用型農業の振興

遠賀町北部地区を対象に、土地利用型農業の効率化を目指し、町やＪＡと連携し、集落営農法人や関係集落とともに地域農業の将来について検討を進めました。

他の地域では、地域計画の策定支援を通じて、担い手への農地の集積・集約化を支援しました。



地域計画の策定に向けた協議

3 成果

(1) 新たな担い手による産地振興

いちごは、新規就農者及び新規栽培者への支援の結果、新たに3名が栽培を開始しました。

びわ生産塾では、高倉びわ活性化協議会と協力して活動を行い、7名の塾生が新規栽培に向けて取り組んでいます。

(2) 重点支援対象の経営力強化

新品目として1戸がケイトウ、肥料の低コスト化技術として3戸が緑肥（ソルゴー、クリムソンクローバー）を新たに導入しました。

労働力不足の対応として、1法人が新たに1日農業バイトを利用した短期雇用を開始しました。



新たに栽培を開始したケイトウ

(3) 土地利用型農業の振興

遠賀町北部地区では4地区で地域計画が策定されました。また、集落営農法人及び関係集落との連携検討会を開始し、広域法人化を目指すことを確認しました。



遠賀町北部地区の連携検討会

地域を元気にする多様な担い手の育成

1 背景

地域農業の発展のためには、多様な担い手が継続的な経営を実現することが重要です。このため、地域で育成すべき経営モデルを作成し、重点支援対象に位置付けた担い手の経営改善を支援しました。

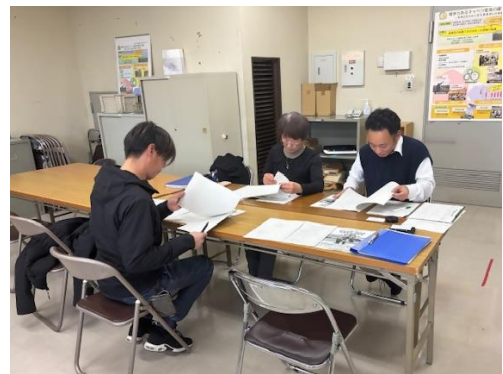
また、地域及び農業経営において重要な役割を果たしている女性農業者について、主体的な経営への参画を支援しました。

2 取組内容

(1) 経営体育成支援

支援対象の9経営体に対して、カウンセリングにより課題を明らかにし、経営分析による品目及び作型の見直しや栽培技術改善など、必要に応じた支援を実施し、経営目標の達成を目指しました。

また、経営継承を希望する経営体に対しては、専門家の協力を得て、農地や機械など資産の引き継ぎに伴う具体的な手続きを整理しました。



専門家派遣による経営継承支援

(2) 女性農業者の経営参画促進

女性農業者を対象とした研修会を2回開催し、先輩女性農業者のほ場見学や経営参画に関する意見交換を行いました。また、販売力強化のための宣伝資材作成について学ぶなど、女性農業者の資質向上及び農業者間の交流を促進しました。



女性農業者研修会

3 成果

支援した経営体では、新たな作型や新規品目への取り組みにより、売上や所得の改善が見られました。経営継承を希望する経営体では、税法上や手続きに関する疑問点が解消され継承への手順が明確になったことで、後継者の経営意欲が向上しました。

女性農業者については、研修会等での資質向上を図った結果、主体的な経営参画を行う女性認定農業者1名、地域のリーダーとなることが期待される女性農村アドバイザー1名を育成しました。

採種米麦の安定生産に向けた取組み

1 背景

J A北九楠橋採種部会では、水稻種子「元気つくし」2.7ha、「夢一献」1.5ha、大麦種子「はるか二条」11ha が作付けされています。数年前から生産農家の世代交代が進んでおり、栽培技術の継承が課題となっています。

そこで、栽培歴の浅い生産者の栽培技術習得と、近年の温暖化に対応した高品質種子の安定生産に向け支援しました。

2 取組内容

(1) 栽培技術の継承支援

現地互評会（巡回）を定期的を実施することで、経験の浅い生産者に対して細やかな栽培技術指導を行うとともに、ベテラン生産者との意見交換の場を設けました。意見交換では、多くの質問があり、部会員同士で活発な意見交換が行われました。



現地互評会の様子

(2) 温暖化に対応した安定生産

温暖化に伴い、出穂期や成熟期が前進していることから、適期管理を指導しました。また、近年発生が問題となっている麦雑草のトゲミノキツネノボタンなどの対策として、「トレファノサイド乳剤」の展示ほを設けて効果を検証しました。部会員全員で展示ほを定期的に巡回し、除草効果についての共有を図りました。



研修会の様子

3 成果

栽培歴の浅い生産者の栽培技術が向上し、温暖化に対応した適期管理が行われたことで、令和6年産の責任生産量に対する合格種子の割合は、「元気つくし」は令和5年産の24%から81%に向上することができ、「夢一献」及び「はるか二条」は、合格割合100%を維持することができました。合格できなかった「元気つくし」の要因についても分析を行い、次作に向けた改善策の整理を行っています。

若松地域における露地野菜農家の生産・経営安定に向けた取組

1 背景

北九州市若松地域では、冬季は露地野菜であるキャベツとブロッコリーが主幹品目として作付けされています。しかし、近年の気候変化で生産が不安定なことや社会情勢に伴う資材高騰等による所得低下が問題となっています。

そこで、令和4～6年度にかけて主幹品目であるキャベツ・ブロッコリーの生産量の安定化及びリスク分散を目的に補完品目の拡大・推進による経営安定の支援に取り組みました。

2 取組内容

(1) 主幹品目の生産安定

適期定植による年内出荷量の安定を図るため、講習会で管理情報の提供や排水対策の推進を行いました。

また、安定出荷を目指し、作型選定のための品種試験や減化学肥料・緑肥の展示ほを設置しました。



緑肥の展示ほ

(2) 補完品目の拡大・生産安定

補完品目として今年度よりカリフラワーの栽培を開始しました(24a、4名)。栽培技術支援として、個別巡回を中心に栽培管理や調製方法の指導、先進地視察を実施しました。その他の補完品目についても推進資料を配布し、導入及び拡大を図りました。



補完品目のカリフラワー

3 成果

適期定植率は3か年平均でキャベツが81%、ブロッコリーが74%となり、令和3年度(キャベツ:50%、ブロッコリー:69%)より向上しました。年内出荷量は3か年平均でキャベツが648t、ブロッコリーが92tとなり、令和3年度(キャベツ:399t、ブロッコリー:52t)より向上しました。

補完品目は、露地でたまねぎ、白ねぎ、カリフラワーの作付面積が拡大しました(令和3年度:4.1ha→令和6年度:4.4ha)。また、施設でにんじんが作付されましたが、定着に至りませんでした。

引き続き、主幹品目の安定出荷を図るため、個別巡回や講習会による栽培管理指導の実施、品種試験や肥料・緑肥の試験を行います。また、補完品目の導入・拡大のため、個別巡回や推進資料の配布を行い、生産者の経営安定に向けた支援を行っていきます。

遠賀・中間地域におけるいちごの単収向上と安定化

1 背景

遠賀・中間地域はいちごの産地ですが、部会の平均単収は県平均よりも低く推移しています。生産者は高齢化していますが、近年、積極的な新規就農者の受け入れ支援により、毎年1～2名程度の新規就農者がいちご生産を開始しています。このため、令和4～6年にかけて、いちごの生産性のさらなる向上及び新規就農者の経営安定に向けた技術支援に取り組みました。

2 取組内容

(1) 目標単収の達成支援

収益性等を考慮して設定した目標単収 3.6t/10a の達成のため、現地巡回や栽培技術情報の提供を行いました。また、生産の課題を調査し、課題として挙げた水質改善と高温対策について技術的支援を行いました。



いちごの生育調査

(2) 新規就農者の就農計画目標の早期達成を支援

新規就農者の栽培技術向上を図るため、定期的な個別巡回と栽培技術情報の提供を行い、就農計画達成に向けた支援を行いました。また、土壌や水質の分析、環境測定機器によるハウス内環境のデータ収集と調査を行い、新規就農者の課題の抽出と解決に向けた支援を行いました。



農業用水の調査

3 成果

技術的課題については、農業用水のpHが高かったため、水質を安定させる中和資材施用を提案しました。また、高温対策として、寒冷紗の導入やかん水管理について栽培技術情報を提供しました。その結果、3か年で部会員3戸が目標単収 3.6t/10a を達成しました。

新規就農者に対しては、営農計画に沿った経営を実現するために、育苗期の栽培管理、厳寒期のハウス内温度管理、病虫害防除といった技術的課題を解決しました。その結果、3か年で3戸が就農計画目標を達成し、令和6年の新規就農者の平均収量は部会平均の139%となりました。

地域特産果樹の生産安定と産地の維持

1 背景

北九州地域では、びわ、みかん、いちじくといった多様な果樹が生産されていますが、高齢化により生産者数、生産量が減少しています。そのため、JAや各部会と連携し、新品種の導入推進やスマート農業機器の導入に向けた検討を行いました。

2 取組内容

びわでは、大玉で高品質な「なつたより」や「湯川」の導入推進のために、新品種検討会を行ったほか、若手のびわ生産者を中心に栽培技術支援を強化し、新品種の優位性を周知しました。

みかんでは、食味に優れる「早味かん」、「北原早生」の導入推進に向け、新品種検討会や既存生産者の導入意欲向上を図るための栽培技術支援等を行いました。

また、スマート農業機器の導入に向け、各品目で実証試験として、スマートグラスやアイカメラを使用し、ベテラン農家の技術を新規生産者に伝承する取り組みを行いました。

3 成果

びわは、3年間で「なつたより」、「湯川」ともに、約20a拡大しました。

みかんは、3年間で「早味かん」が20a、「北原早生」が51a拡大しました。

いずれの品種も新規生産者を中心に今後も植栽が計画されており、さらに面積が拡大する予定です。

また、スマート農業機器の活用については、びわとみかんの新規生産者の技術指導をする際に活用しましたが、課題も多く残り、次年度以降の活用方法を検討していきます。



「なつたより」新植園地



スマート農業機器の活用

3 主な展示ほの結果の概要

対象作物	設置場所	課題と結果の概要
水稻	岡垣町	[奨励品種の現地調査] 奨励品種「ちくし102号」「ちくし105号」は、「夢つくし」に比べ、いもち病及び白未熟粒の発生が少なく、収量も同等以上であった。
水稻	芦屋町	[基肥一発肥料の検討] 緩効性肥料「Jコート・レコアップ入り水稻一発866」は、夢つくし栽培で慣行肥料「エムコート2000」と同等の施肥効果が認められた。
水稻	遠賀町 芦屋町 中間市	[初中期一発除草剤の検討] シンゲキジャンボ、オイカゼZジャンボ、カチドキZ楽粒、ゼータプラス200FGは、慣行のガンガンジャンボと同等の除草効果が認められた。
大麦	遠賀町 八幡西区	[難防除雑草対策の検討] 雑草発生前にリベレーターとトレファノサイド乳剤の混和薬剤を散布することで、雑草の抑制効果を確認し、リベレーター散布1ヶ月後にトレファノサイドを散布することで、さらに高い効果が認められた。
大豆	中間市 遠賀町	[難防除雑草対策の検討] 播種前にトレファノサイド乳剤の土壌混和处理を実施することで、アサガオ類に対する高い防除効果が認められた。
キャベツ ブロッコリー	若松区	[再生リン肥料を用いた化学肥料削減の検討] 再生リン肥料「e・green」は慣行肥料「若松野菜」と同等の施肥効果が認められた。
キャベツ ブロッコリー	若松区 芦屋町	[緑肥の検討] イネ科の「ソルゴー」、マメ科の「クロタリヤ」を用いて緑肥の効果を検証し、一定の効果が認められた。

対象作物	設置場所	課題と結果の概要
ほうれんそう	小倉南区	[ケナガコナダニに対する殺虫剤の効果の検討] 新規薬剤「ネコナカットフロアブル」は、慣行薬剤「カスケード乳剤」と同等の効果があることが認められた。
ブロッコリー	遠賀町	[アブラムシ類に対する殺虫剤の効果の検討] 新規薬剤「セフィーナDC」は、慣行薬剤「ウララDF」と同等の効果が認められた。
キャベツ	芦屋町	[コナガに対する殺虫剤の効果の検討] 新規薬剤「フィールドマストフロアブル」は、慣行薬剤「ブロフレアSC」と同等の効果が認められた。
キャベツ	若松区	[菌核病に対する殺菌剤の効果の検討] 新規薬剤「カナメフロアブル」は、慣行薬剤「パレード20フロアブル」と同等の効果が認められた。
牧草	八幡西区	[夏作栽培の検討] 暖地型牧草「テフグラス（トップガン）」は、生育が早く短期間での栽培利用が可能であることが確認できた。
かんきつ	若松区	[灰色かび病に対する殺菌剤の効果の検討] 新規薬剤「ケンジャフロアブル」は、慣行薬剤「ストロビードライフフロアブル」と同等の効果が認められた。
花苗	北九州市	[切り花用アスター品種を用いたポット苗生産における定植時期の検討] 切り花用のアスター品種を用いて、7～8月出荷の3.5寸ポット苗生産に適した定植時期を検討した結果、4月上旬～5月下旬が適すると考えられた。

4 トピックス

麦作共励会で花田正則氏が全国米麦改良協会会長賞を受賞 ～適切な管理による高収量・高品質が評価される～

令和6年度全国麦作共励会において、中間市の花田正則氏が農家の部で全国米麦改良協会会長賞を受賞されました。

同氏は、水稻、麦、大豆を主とした認定農業者で、令和6年産麦類の栽培面積は、大麦「はるか二条」745a、小麦「チクゴイズミ」210aでした。

麦栽培管理上の特色としては、弾丸暗渠などの排水対策に加え、排水条件の悪いほ場に優先的に小麦を作付けする等、麦の特性に合わせた栽培を実践しています。また、有機物や土壌改良材の投入、踏圧や土入れなど基本技術を忠実に実施し、地域平均を大きく上回る単収を確保しています。

また、地域計画においては、中心経営体として位置づけられる見込みで、重要な担い手として活躍が期待されています。これらのことが評価され、今回の受賞となりました。



全国米麦改良協会会長賞を受賞した花田氏

大豆作共進会で森盛義氏が優秀賞を受賞 ～土づくりによる高収量・高品質が評価される～

令和5年度福岡県大豆作経営改善共進会において、遠賀町の森盛義氏が農家の部で優秀賞を受賞されました。

同氏は、米・麦・大豆・露地野菜を作付けしている認定農業者で、令和5年産大豆は108aを栽培しました。

大豆栽培管理上の特色としては、弾丸暗渠などの排水対策は、麦わらなどの有機物のすき込みや土壌改良材散布による土づくりに力を入れています。また、ドローンを用いた病虫害防除など、スマート農機の導入にもいち早く取り組んでいます。

令和5年産大豆の収量は雑草防除や病虫害防除の徹底により、地域の平均を大きく上回り、併せて高い品質を確保しました。また、地域の重要な担い手として精力的に活動しており、今後も活躍が期待されます。これらのことが評価され、今回の受賞となりました。



表彰式での森氏

福岡県農業指導功労者表彰を田中義一氏が受賞 ～地域農業の発展に貢献～

北九州市若松区で露地野菜（キャベツ、すいか等）を中心に、施設野菜（すいか、かぶ等）、観光農園（かんしょ）、加工品販売（自家栽培農産物を活用したソフトクリーム）を組み合わせた経営を行っている田中義一氏が福岡県農業指導功労者として、令和6年12月23日の福岡県青年農業者会議で表彰されました。

田中氏は、指導農業士として農業大学校や農業高校の学生、新農業者育成研修生の受け入れ等、担い手の育成に取り組まれました。

また、昨年度までJA北九若松そさい部会長を務められ、部会員の資質向上やキャベツ、すいかのブランド化に長年取り組まれました。

さらに、県GAP認証取得（すいか、ブルーベリー）による持続可能な農業生産にも取り組まれています。長きにわたり、地域農業の発展に貢献された実績が評価され、今回の表彰となりました。



農業指導功労者表彰を受賞した田中氏

ジャパン・フード・セレクションでなかにし養鶏場の 「濃厚有精卵ぷりん」がグランプリ受賞

北九州市若松区で100年以上の歴史を誇る、なかにし養鶏場の人気商品「濃厚有精卵ぷりん」が、ジャパン・フード・セレクション第80回（令和6年10月）食品・飲料部門にて、グランプリを受賞しました。

このプリン是有精卵の卵黄を贅沢に2個使用し、卵のうま味がたっぷり詰まった同養鶏場ならではの逸品で、滑らかな食感や素材そのものの美味しさが高く評価されました。

同養鶏場は敷地内の直売所で、プリンのほか、採れたて卵、鶏肉加工品等の商品を販売しています。

また、今年度は高性能の燻製マシンを導入し、鶏肉を使った数々の新商品開発にも力を入れています。

さらに鶏舎の建て替えを進めており、春からは新たな鶏舎での卵の増産が期待されます。



グランプリを受賞した中西氏

福岡県農林水産まつりで早苗泰博氏が農林水産賞を受賞 ～びわ産地の維持と地域農業の発展に尽力～

令和6年11月2日に福岡市で開催された第24回福岡県農林水産まつりにおいて、岡垣町でびわ、かんきつ類を中心に果樹専業経営を行っている早苗泰博氏が農林水産賞の園芸部門で名誉賞を受賞されました。

早苗氏は、J A北九おんがびわ部会の部会長として、びわ産地の生産と販売力の向上に取り組むほか、「高倉びわ生産塾」において、新規生産者の育成に積極的に取り組むなど、岡垣町のびわ産地維持に貢献してきました。

また、販売面でも農産物直売所「やっぱあ～岡垣」を立ち上げ、地域の農産物や6次化商品（びわの葉茶、ドライフルーツ等）が販売出来る拠点を整備するなど、長年に渡り、地域農業の発展に貢献された実績が評価され、今回の表彰となりました。



農林水産賞を受賞した早苗氏

福岡県農林水産まつりで(農)おざきファームが農林水産賞を受賞 ～遠賀地域の農業振興及び集落営農の発展に尽力～

令和6年11月2日に福岡市で開催された第24回福岡県農林水産まつりにおいて、遠賀町尾崎地区の農事組合法人 おざきファームが農林水産賞の農産部門で優秀賞を受賞されました。

(農)おざきファームは、堆肥の投入等による土づくりを行うと共に、排水対策を徹底して、毎年、高収量、高品質の麦・大豆を生産しています。

また、肥料や資材の高騰に対応するため、麦作に鶏ふんを利用する等、生産コストの低減にも努めています。

尾崎地区の農業の今後についても早くから検討を始め、集落協議では、個別担い手との意見調整を含め中心的な役割を担っており、遠賀地域における地域計画策定のモデルとなっています。

遠賀地域の農業振興及び集落営農の発展に貢献されたこれらの実績が評価され、今回の表彰となりました。



(農) おざきファーム役員

福岡県農林水産まつりで藤嶋在寛氏が農林水産賞を受賞 ～SDGs や地域社会への貢献が評価される～

第 24 回福岡県農林水産まつりにおいて、北九州市若松区の藤嶋在寛氏が農林水産賞畜産部門で優秀賞を受賞されました。

同氏は、昭和 54 年から畜産経営に取り組んでおり、時代の流れを見極めながら徐々に規模を拡大し、現在では北九州市内最大の肉用牛牧場に発展しました。

経営当初から、おから等の食品製造副産物を飼料として活用するなど経営に工夫を凝らしており、生産コストの低減を図るとともに、SDGs における食品ロス削減にも貢献しています。

また、牧場で障がい者を雇用し、農福連携にも積極的に取り組み、地域社会に幅広く貢献を行っています。

これらのことが評価され、今回の受賞となりました。



表彰式での藤嶋氏（中央）

ふくおか 6 次化商品セレクションで「赤しそドリンク」が受賞 ～福岡県農業協同組合中央会会長賞～

福岡県では 6 次化商品の魅力高め、販売拡大を促進するため「ふくおか 6 次化商品セレクション」を実施し、優れた商品を表彰しています。

令和 6 年度は北九州農業協同組合より出品された「赤しそドリンク」が福岡県農業協同組合中央会会長賞を受賞しました。

赤しそドリンクは遠賀町及び芦屋町産の



赤しそドリンク (写真: 遠賀町 HP より)



「芳香赤しそ」と遠賀町産「モチの木はちみつ」を使用しており、鮮やかな赤色とさわやかな酸味が特徴です。赤しそドリンクは地元スーパー、直売所等で販売されているほか、遠賀町のふるさと納税と提携をしています。

5 現地活動情報・活動体制

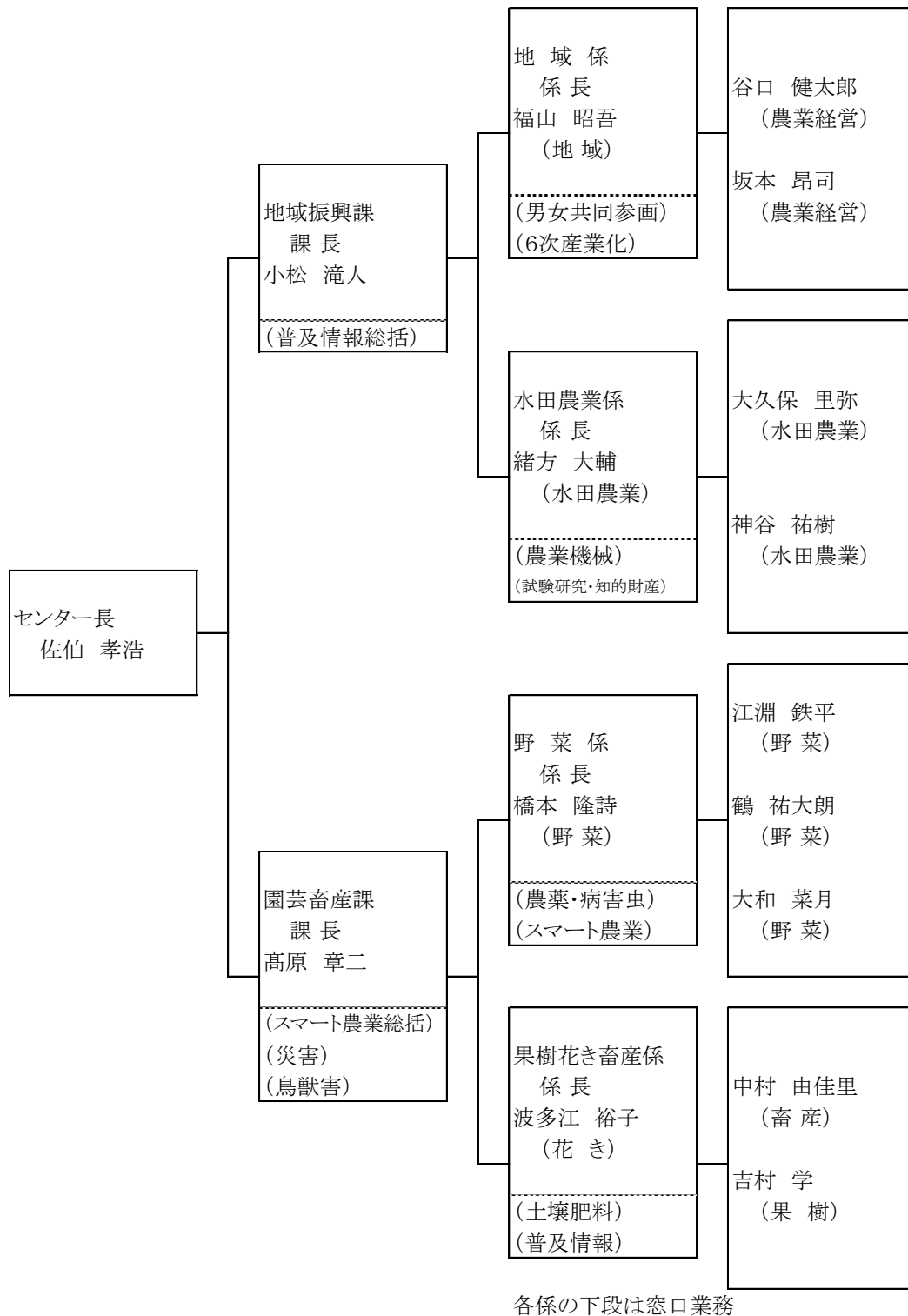
令和6年度 現地活動情報一覧

No.	表題（タイトル）	係名	公開月
1	高品質種子の更なる安定生産を目指して 採種部会員を対象に水稻の栽培講習会を実施	水田農業係	6月
2	「高倉びわ」の出荷が本格化 露地びわ出荷目合わせ会を開催	果樹花き畜産係	6月
3	農業高校生徒の勉強会を開催 地域農業とイチゴ栽培を学ぶ	野菜係	6月
4	さんさんクラブ北九州が総会・研修会を開催 農産物の販売方法を考える	地域係	7月
5	キュウリの出荷が始まる 新品種導入による品質・収量の向上を目指して	野菜係	7月
6	若松区の夏の風物詩、スイカの出荷が最盛期 若松クイーン・若松潮風®プレミアム	野菜係	7月
7	中間市立底井野小学校で出前授業を実施 中間市の農業、稲作について学ぶ	地域係	7月
8	「高倉びわ生産塾」を開催 びわ産地の生き残りをかけて生産塾を再開	果樹花き畜産係	8月
9	営農基礎講座を開催 農薬適正使用や土壌肥料について学ぶ	地域係	8月
10	高品質な種子生産の技術継承に向けて 採種麦「はるか二条」の栽培研修会を開催	水田農業係	11月
11	目指せ、博多蕾菜の高品質生産！ 博多蕾菜現地講習会を開催	野菜係	11月
12	北九州市産シクラメンの出荷が本格化 JA北九花き部会販売検討会を開催	果樹花き畜産係	11月
13	経営計画の作成について学ぶ 営農基礎講座（経営）を開催	地域係	11月
14	「大葉春菊」が「うまかるーま®」として出荷開始！ ブランド力を強化して「うまか」をもっと知って欲しい	野菜係	12月
15	岡垣町でイチゴ出荷目合わせ会を開催 「あまおう」の出荷本格化に向けて	野菜係	1月
16	なかにし養鶏場の「濃厚有精卵ぷりん」が ジャパン・フード・セレクションでグランプリ受賞	果樹花き畜産係	1月
17	「若松潮風®」新出荷箱とプロモーションビデオのお披露目 若松潮風ブランドの更なる強化に向けて	野菜係	1月
18	収入保険や先輩農家の経営について学ぶ 営農基礎講座（視察研修）を開催	地域係	1月
19	高品質な採種麦の生産に向けて 採種部会員を対象に互評会を実施	水田農業係	2月
20	農産物のブランディングについて学ぶ 女性農業者研修会を開催	地域係	2月
21	転作作物の振興に向けて 米粉用品種「ふくのこ」の展示ほ結果を紹介	水田農業係	2月

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/>
上記の福岡県ホームページでご覧いただけます。

5 現地活動情報・活動体制

令和6年度 普及指導センターの活動体制



福岡県行政資料			
分類番号 PA	所属コード 4703305	登録年度 6	登録番号 0002

福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター
 〒807-0831
 福岡県北九州市八幡西区則松3丁目7-1(八幡総合庁舎 2階)
 TEL 093-601-8855
 FAX 093-601-8869
 E-mail: kitakyu-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
 URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/>